

「基礎 材料学」 正誤表

頁	行・図・式	誤	正																											
v	下から 6行目	均質核	均一核																											
13	下から 4行目、 図1.12	イオン結合	共有結合																											
41	図1.50(b)	$\begin{array}{c} \text{H} \\ \\ \text{H} \ \text{H} \ \text{H} \end{array}$	$\begin{array}{c} \text{H} \\ \\ \text{H}-\text{C}-\text{H} \end{array}$																											
	図1.50	4種類の	5種類の																											
67	上から 7行目	一方、	[2]自由電子から結晶へ 一方、																											
87	3.1.1項 冒頭の一文	相は物質において、ほかの領域と構造あるいは組織が異なる領域で、一様な物理的性質、化学的性質を有する。相変態は、物質が一つの相から別の相に変化することである。																												
89	上から 3行目	均質核	均一核																											
90	図3.3	ΔG^*_{γ}	ΔG^*																											
		$= \frac{4}{3} \pi r^3 r \Delta G_v$	$= \frac{4}{3} \pi r^3 \Delta G_v$																											
92	式(3.10)	最後の γ	γ_{SL}																											
	式(3.11)	$4\pi\gamma^3$	$4\pi\gamma_{SL}^3$																											
		$3\Delta H^2$	$3\Delta H_f^2$																											
108	表3.3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">反応の名称</th> <th colspan="3">進行する反応(→は冷却, ←は加熱)</th> </tr> <tr> <th>相1</th> <th>相2</th> <th>相3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共晶</td> <td>液相 L</td> <td>⇌</td> <td>固相 α + 固相 β</td> </tr> <tr> <td>共析</td> <td>固相 α</td> <td>⇌</td> <td>固相 β + 固相 γ</td> </tr> <tr> <td>包晶</td> <td>液相 L + 固相 α</td> <td>⇌</td> <td>固相 β</td> </tr> <tr> <td>包析</td> <td>固相 α + 固相 β</td> <td>⇌</td> <td>固相 γ</td> </tr> <tr> <td>偏晶</td> <td>液相 L₁</td> <td>⇌</td> <td>固相 α + 液相 L₂</td> </tr> </tbody> </table>		反応の名称	進行する反応(→は冷却, ←は加熱)			相1	相2	相3	共晶	液相 L	⇌	固相 α + 固相 β	共析	固相 α	⇌	固相 β + 固相 γ	包晶	液相 L + 固相 α	⇌	固相 β	包析	固相 α + 固相 β	⇌	固相 γ	偏晶	液相 L ₁	⇌	固相 α + 液相 L ₂
反応の名称	進行する反応(→は冷却, ←は加熱)																													
	相1	相2	相3																											
共晶	液相 L	⇌	固相 α + 固相 β																											
共析	固相 α	⇌	固相 β + 固相 γ																											
包晶	液相 L + 固相 α	⇌	固相 β																											
包析	固相 α + 固相 β	⇌	固相 γ																											
偏晶	液相 L ₁	⇌	固相 α + 液相 L ₂																											